

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」  
実社会対応プログラム最終評価結果表

課題	制度、文化、公共心と経済社会の相互連関
研究テーマ名	子ども・若者の貧困対策諸施策の効果と社会的影響に関する評価研究
研究代表者	阿部 彩
所属機関・部局・職	首都大学東京・人文科学研究科・教授
研究成果の総合評点：A	
研究成果の評価に係る所見	
<p>本研究は、「子どもの貧困」という社会的に高い関心をもたれているテーマについて、おもに貧困世帯児童の学習支援事業の実態分析と子どもの貧困をめぐる世論形成の実態分析から接近したものである。このうち前者の点については、行政部局の関与のあり方が重要であること、学習支援事業が学力向上よりは「居場所」提供として機能していることなど、興味深い知見が得られている。ただし、これら知見の含意についてさらなる分析があれば、よりインパクトが高まったのではないだろうか。また、研究がより計画的に進められていれば、さらなる研究成果が得られたように思われる。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い